

【高温に対する技術対策】

共通事項

- 1 高温が続くことにより、農作物の生育ステージの急激な前進が想定される場合は、農作業計画の適切な見直しや、農業資材等の確保に留意する。また、病害虫防除所による病害虫発生予察情報の収集に努める。
- 2 暑熱環境下での作業は熱中症を生じるおそれがあるため、気温の高い時間帯を避けて作業を行う。また、休憩をこまめにとり、水分や塩類を十分に補給する。

野菜

1 全般

- (1)かん水は地温が低下している早朝・夕方に実施する。また、敷きわらやもみ殻で土壌を被覆し、地温上昇の抑制と土壌水分の蒸発抑制に努める。
- (2)園芸用施設は、妻面・側面を開放するとともに、寒冷紗等遮光資材を使用し、施設内の温度上昇を抑制する。
- (3)こまめな除草や側枝、弱小枝、下葉を除去し、風通しを良くする。
- (4)育苗箱は、コンテナやブロックでかさ上げし、風通しを良くする。
- (5)無理な土寄せ等は根を傷めるので避ける。
- (6)ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫については、その発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

2 葉茎菜類

- (1)ねぎでは、軟腐病が発生するおそれがあることから、畝間かん水を控える。
- (2)乾燥によるチップバーンを防止するため、薬剤防除時にカルシウム剤を混用する。

3 果菜類

- (1)不良果の摘果、若どりを行い、着果負担の軽減を図るとともに、適宜施肥により草勢維持と成り疲れを防止する。
- (2)老化葉、黄色葉を中心に摘葉を実施し、蒸発を抑制するとともに、かん水による土壌水分の急激な変化に留意する。
- (3)カルシウム欠乏、鉄欠乏、ホウ素欠乏等の生理障害対策として、必要に応じて葉面散布を行う。

果樹

1 干ばつ対策

- (1)敷わら、敷草等により、土壌水分の蒸発を極力抑制しつつ、適宜かん水を実施する。かん水に当たっては、かん水設備の漏水・目詰まり等に留意し、適切にかん水が行われるよう事前に点検を行う。
- (2)草生園においては、干ばつ期の下草刈りを実施し、果樹と草との養水分の競合を防

ぐ。

2 高温対策

- (1) 収穫期を迎える果実については、着色不良を防止するため、剪定や反射シートの活用による光環境確保の取組みによって、着色を促す。
- (2) 着色が遅延することに伴い収穫時期が遅れ、果実が過熟とならないよう、糖度を適宜確認するなど、適期収穫に努める。
- (3) 高温によって果実の日焼けが発生しやすい園地においては、各種資材による遮光等の対策をとる。

3 病虫害対策

干ばつ時に発生し易いハダニ類については、発生動向に十分注意し、発生初期からの薬剤防除を実施する。なお、防除に当たっては、収穫前日数に注意する。

花き

- 1 露地栽培は、敷わら等のマルチを用いて、土壌水分の蒸発防止に努める。
- 2 施設栽培は、寒冷紗など遮光資材を用いて、気温や地温、植物体温の上昇を抑える。また、妻面・側面の開放や換気扇や循環扇等により、施設内の通風を図るとともに、室温と湿度の上昇を抑える。
- 3 切り花については、朝・夕の気温の低い時間に採花し、常温で長時間放置しない。できれば氷冷庫で保管して出荷する。
- 4 ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫については、その発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

家畜

- 1 飼育密度の緩和や、畜体等への散水・散霧により、家畜の体感温度の低下を図るとともに、換気扇等による送風、換気、寒冷紗やよしずによる日除け、屋根裏への断熱材の設置及び屋根への消石灰の塗布等、畜舎環境の改善を図ること。
- 2 良質で消化率の高い飼料及び清浄で冷たい水を給与すること。飼料給与は涼しい時間帯に回数を分けて行う。餌槽はこまめに掃除し、変敗した飼料が残らないようにする。
- 3 必要に応じ、ビタミンやミネラルを給与し、栄養不足を補う。